

シラバス (授業計画)

授業科目名	開講学年	必・選	単位数	担当教員名
税 法 学 特 論 III	1・2年生	選択	2単位	倉地 和敏
<p>授業の到達目標及びテーマ 所得税法・消費税法の法令の条文を読解でき、具体的事例に適用できる能力を身に付ける。 所得税法・消費税法の体系的知識を習得する。</p>				
<p>授業の概要 授業の進め方は、研究生が司会班、説明・回答班、質問班の3班に分かれて討議を行う方式による。 そのため、講義範囲のテキストを事前に熟読し理解しておくことが不可欠である。 討議の内容や理解度に応じて、教授が質問・解説を行う。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1回 所得税法① 総説</p> <p>第2回 所得税法② 所得税制度の基本的仕組（納税義務者、課税標準、所得金額の統合等）</p> <p>第3回 所得税法③ 各種所得の意義と範囲（不動産所得、事業所得、給与所得、退職所得）</p> <p>第4回 所得税法④ 各種所得の意義と範囲（山林所得、譲渡所得、資産の譲渡等に関する特例）</p> <p>第5回 所得税法⑤ 各種所得の意義と範囲（利子所得、配当所得、一時所得、雑所得）</p> <p>第6回 所得税法⑥ 所得計算の通則（収入金額、必要経費①（総説～売上原価））</p> <p>第7回 所得税法⑦ 所得金額の通則（必要経費②（販管費～所得金額の計算の特例））</p> <p>第8回 所得税法⑧ 所得控除、税額の計算</p> <p>第9回 所得税法⑨ 源泉徴収制度、非居住者及び法人の納税義務</p> <p>第10回 所得税法⑩ 申告、納付及び還付</p> <p>第11回 消費税法① 総説、課税の対象</p> <p>第12回 消費税法② 非課税と免税、納税義務者と納税義務の成立</p> <p>第13回 消費税法③ 課税標準と税率、税額控除</p> <p>第14回 消費税法④ 申告納付と納税地、国、地方公共団体等に係る特例</p> <p>第15回 消費税法⑤ 個別消費税等</p> <p>第16回 定期試験等</p>				
<p>履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習） 簿記・会計の知識が不可欠である。 税法の読み方の基本を、伊藤義一『税法の読み方判例の見方〔改訂第3版〕』（TKC出版）」によりマスターしておくこと。 授業範囲の税法・テキストを読解しておくこと。 各回、少なくとも、2時間程度の事前学習、2時間程度の事後学習が必要である。 特に、授業等で十分理解できなかった点は、事後学習で理解を深めること。</p>				
<p>テキスト 『実務 税法六法（法令編・通達編）〔令和2年版〕』（新日本法規出版）、金子宏『租税法〔第23版〕』（弘文堂）、『スタンダード所得税法〔第2版補正2版〕』（弘文堂）、『所得税法（基礎編）〔令和2年度版〕』（税務大学校）、『消費税法（基礎編）〔令和2年度版〕』（税務大学校）、伊藤義一『税法の読み方判例の見方〔改訂第3版〕』（TKC出版）、中里実ほか『租税判例百選〔第6版〕』（有斐閣）</p>				
<p>参考書・参考文献・参考資料等 『ポケット六法』（有斐閣）、注解所得税法研究会『注解 所得税法』（大蔵財務協会）、中里実ほか『租税法概説』（有斐閣）、金子宏ほか『税法入門』（有斐閣）、『税法用語辞典』（大蔵財務協会）、『図解による法律用語辞典』（自由国民社）、金子宏ほか『ケースブック租税法』（弘文堂）、川田剛『租税法入門』（大蔵財務協会）</p>				
<p>成績評価の方法・基準 授業への取組状況（事前・事後の学習状況等）、授業での発言状況、試験等の結果を総合勘案して評価する。</p>				